

カパー  
ロマン

適材適所



高原 弘榮

社団法人日本銅センターPR委員長  
(三井金属鉱業株式会社)  
取締役常務執行役員

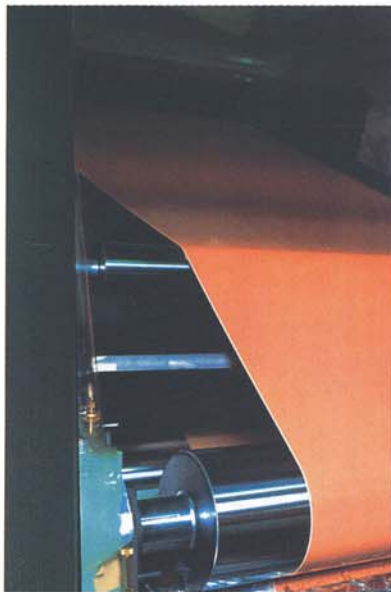
組織の活性化には、適材適所が不可欠です。私は時々、特定の材料の需要拡大をこれになぞらえて考えます。あらゆる製品を作る時、プランナーや設計者はその製品の機能や価格、そして最近では親環境性などをベースにして、それを充足できる材料を選定します。一定の技術条件の下では、それぞれに適応される材料の選択範囲は限定されるでしょうが、素材の価格、品質、加工性、機能などを改善することにより他の競合製品より優位に立つことが可能です。

ある特定の材料の需要を拡大する担い手は大きく分けて二つのグループにあると思います。第一のグループは、製品の設計開発に携わる人たちで、第二のグループは最終製品を自ら選択する需要者です。第三のグループは特定の材料やその製品の製造・販売に携わる事業者やその団体の私たちはこの一員であります。競合材料が多い場合、この二つのグループの連携の度合いにより材料の選択が左右されることとなります。

わが銅及びその製品は、優れた電気的、物理的、化学的特性や美しい光沢を有し、さらに価格も低廉で安定しています。特に最近のIT革命において見られるように銅は不可欠の電子材料としての地歩を一層高めており、このことは銅がいつの時代も変わらない需要を有している優れた素材であることを示唆しています。

人材の適材適所を考える場合、能力の開発による資質の向上や、能力に対する時代の評価の変化などを考えることにより一層人材の選択の幅を広げ、より永続的な効果が期待できますが、同様に、時代のニーズに応じて、前述の第一及び第二グループの人たちと密接な連携を取り、銅系材料の開発支援やその利点の地道なPRを通じて銅需要の開拓に取り組み、材料の適材適所における適所の最大化を図ることが銅需要の拡大をはかる上で何よりも重要だと信じています。

(社)日本銅センターの益々の活躍を期待する所以です。



銅箔圧延



銅箔を多用する携帯電話

銅

第156号

目次

- 巻頭言 ..... 2  
適材適所 ..... 高原 弘榮
- 銅の歴史物語⑭ ..... 3  
「三木自作の銅細工「武蔵の剣」  
カパートーク ..... 4  
「てい談」
- 料理をおいしくする愛情と銅具 ..... 6  
銅と暮らしのロータリー⑯ ..... 6  
エコタウン事業に沸き立つ瀬戸内  
「直島」
- リレー随想 ..... 8  
アナログは心ときめく
- ユーザー訪問 ..... 10  
赤城 耕一  
世界に鳴り響く  
下町生まれの銅製ホイッスル
- 「野田鶴声社」 ..... 12  
銅を学ぶ銅話の世界⑭ ..... 12  
海のミルク「カキのヒミツ」
- 銅の需給動向 ..... 13
- 銅センターニュース ..... 14
- ニューストピックス ..... 15

表紙のことは



銅合金のホイッスル。サッカーW杯で使用され一躍脚光を浴び、世界各国に供給されている。

用途によって音色が異なり、軽く吹いても高い音が出る。シンプルな形の中にも、音にこだわり続ける下町の職人魂が込められている。